

# ANNUAL REPORT 2025

FRESH ON !DEAS  
W!LD ON KNOWLEDGE

01-03: Conferences  
04-05: Sustainability  
06: Incentive Travel  
07: Partners

SAPPORO  
CONVENTION  
BUREAU

MN Bldg.3F  
Chuo-ku Kita 1 Nishi 3  
Sapporo

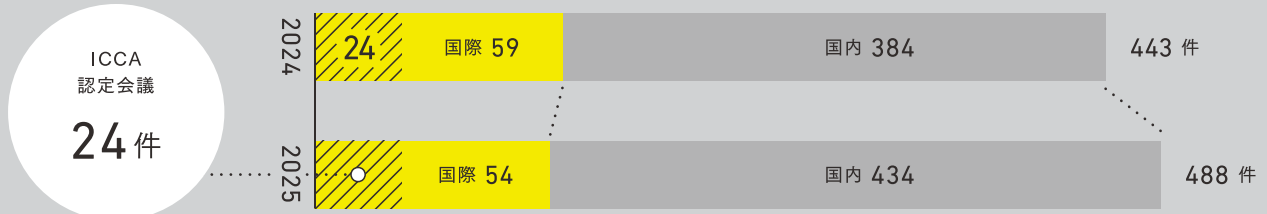
Hokkaido  
060-0001  
Japan

[www.conventionsapporo.jp](http://www.conventionsapporo.jp)

コンベンション統計

対象期間：1月～12月

国際・国内会議の開催件数

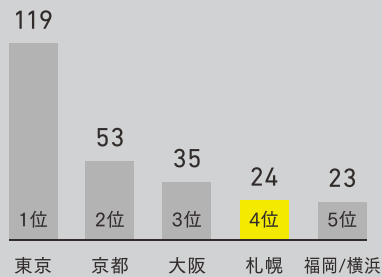


参考 www.iccaworld.org

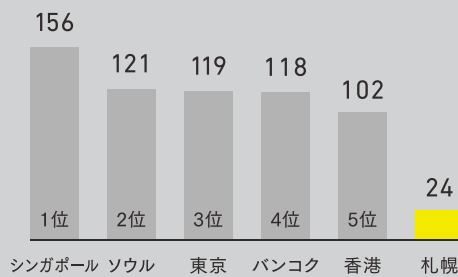
ICCA(国際会議協会) 都市ランキング2025

札幌と同じランキングの都市：仁川、パドヴァ、ビルバオ

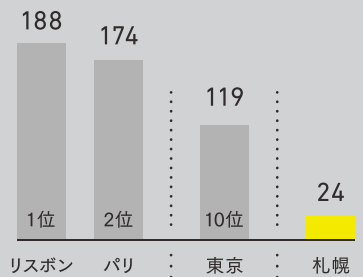
国内 4位



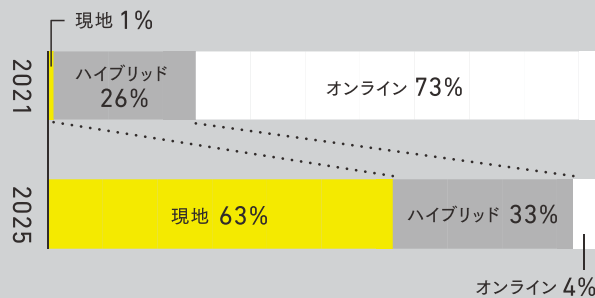
アジア太平洋 23位



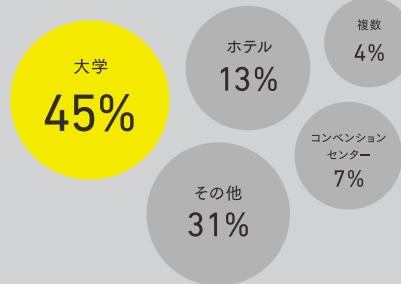
世界 112位



現地／ハイブリッド／オンライン



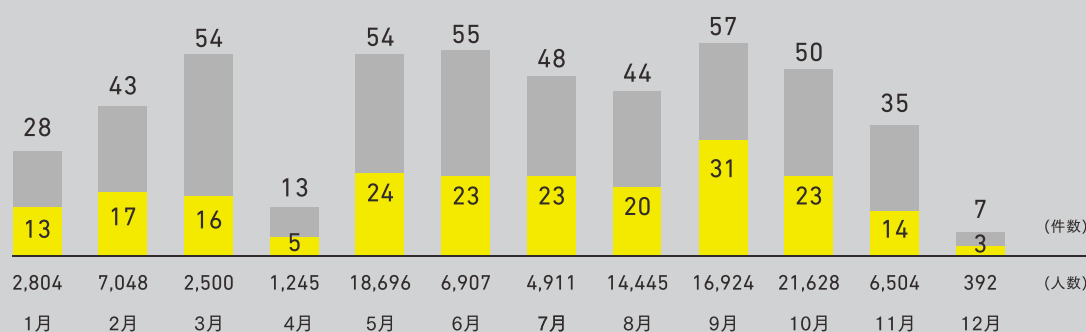
会場



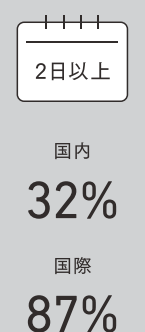
規模



開催月



開催期間



## IMPACT EVENT

11  
/  
15  
SAT16  
SUN日本子ども虐待防止学会  
第31回学術集会ほっかいどう大会

@札幌コンベンションセンター、札幌市産業振興センター

参加人数  
3,000人

## 分野や立場を越えて広がる学びと交流の輪

日本子ども虐待防止学会学術集会は2005年以来20年ぶりに北海道(札幌)で開催され、全国から研究者、医療・福祉・教育分野の実践者など約3,000名が集まりました。本大会は「こどものしあわせ、みんなのしあわせ～考えよう こどもの権利～」をテーマに掲げ、従来の臨床・実践的議論に加え、社会学的視点を取り入れたセッションも数多く実施されました。実行委員によると、こうしたテーマ設定と構成は、同学会においても珍しい取り組みだったそうです。

会期前日には、学会参加者だけでなく一般の方も参加できるプレングレスが開催されました。当日行われた全12企画には、2024年に創設された専門職認定資格「子ども家庭ソーシャルワーカー」取得者など約400名が参加。学会の知見に触れて意見を交わしたり、分野や立場を越えて交流を深める機会が創出され、多くの参加者から好評をいただきました。

## 大会の成功が社会課題を市民と共有するきっかけに

開催にあたっては、数多くの関係者が準備・運営に関わりました。実行委員会は道内各地で活動する約70名で構成され、オンライン会議を活用しながら準備が進められました。開催期間中は学生ボランティアやサポートスタッフなども加わり、約200名が運営を支えました。多くの人が大会づくりに関わることで、会期後も子どもの虐待防止について考え続けるきっかけが生まれています。

本大会は、学術的な議論の場であると同時に、多様な人が関わり、学び合う場でもありました。札幌にとって、社会課題について考える機会を市民と共有することのできた、意義ある開催となりました。



札幌市図書・情報館「ハコニワ」

## より多くの人に知ってもらうために

大会前後の期間には、札幌市図書・情報館の協力のもと、書棚の一面を「子どもの権利」や「虐待防止」に関する特設コーナーとして展開しました。毎年11月の「子ども虐待防止月間」とも連動し、より多くの市民が関心を寄せるきっかけとなりました。

## ? 札幌市図書・情報館の特設コーナー「ハコニワ」とは

いま知りたい最新の話や、新たな視点との出会いを提供する期間限定の本棚です。赤い枠で囲われた棚が目印で、司書のメッセージを込めたキャプションとともに、さまざまなテーマが紹介されています。

## 「合理的配慮」について

本大会では、すべての参加者が安心して大会に参加できるよう、「合理的配慮」を行う方針を、事前にウェブサイト上で案内しました。実際に、色使いの調整など参加しやすい環境づくりに向けた対応が行われ、次回大会の大阪にも引き継がれていきます。

## ? 合理的配慮とは

誰もが平等に生活・学習・就労(イベントの場合:参加・発表・交流)などを行えるように、一人ひとりの困りごとや状況に応じて公平に行われる必要かつ適切な変更や調整のことです。

BIG EVENT

10  
/  
23  
THU  
  
26  
SUN

## 東洋・東南アジアライオンズフォーラム (OSEALフォーラム2025)

@京王プラザホテル札幌、大和ハウス プレミストドーム、  
札幌コンベンションセンター、赤れんが庁舎

参加人数 **10,000** 人      参加国・地域 **25**



### 人的支援を中心に大型国際会議をサポート

2025年の大型国際イベントとなる、世界最大の社会奉仕団体・ライオンズクラブ主催「OSEAL(東洋・東南アジアライオンズ)フォーラム」が札幌で開催されました。札幌での開催は41年ぶり2回目、国内では2019年の広島大会以来6年ぶりとなりました。会期中は25カ国・地域から約1万人が集い、市内4会場において各種プログラムが実施されました。

コンベンションビューローでは、国際会議開催支援の一環として62名の外国語ボランティア(英・中・韓)を派遣。リニューアルオープンした赤れんが庁舎での参加者登録受付をはじめ、札幌コンベンションセンターや開会式会場となった大和ハウスプレミストドームでの来場者の誘導・案内など、大会運営をサポートしました。本フォーラムは大型国際会議として、宿泊や飲食などを含めた札幌市への経済波及効果は21億円以上と見込まれています。

想定される経済波及効果  
**¥ 21 億円**  
※観光庁MICE簡易測定モデル



### 開催が決まった国際会議 (一部)



第17回アジア太平洋航空宇宙技術  
国際シンポジウム(APISAT-2026)  
& 第64回飛行機シンポジウム

@札幌コンベンションセンター

開催年 **2026** 年 **10** 月      参加人数 **800** 人



IUPAC第33回国際天然物化学会議  
および第13回生物多様性会議  
(ISCNP33 - ICOB13)

@札幌コンベンションセンター

開催年 **2027** 年 **8** 月      参加人数 **800** 人



人とロボットとの  
インタラクションに関する国際会議  
(ACM/IEEE HRI2028)

@グランドメルキュール札幌大通公園

開催年 **2028** 年 **3** 月      参加人数 **500** 人



アンテナ伝搬  
国際シンポジウム  
(ISAP2029)

@グランドメルキュール札幌大通公園

開催年 **2029** 年 **10** 月      参加人数 **700** 人



RESEARCH

## 助成金制度から描く、 開催地と主催者の新たなパートナーシップ

札幌コンベンションビューローは、コンベンション助成金の新たな可能性を探るため、国際調査プロジェクト「Subvention for Change」(Conferli、#MEET4IMPACT、GDS-Movementによる共同調査)にスポンサーとして参加しました。本調査は、世界115の都市・ビューローと55の学会・協会を対象に、助成金制度がサステナビリティ推進や社会インパクトの創出にどのような影響を与えているのかを明らかにしたものです。



### 「経済効果」の先にあるニーズと課題

これまでコンベンション助成金は、主に誘致競争力の強化や経済効果の最大化を目的として設計・運用されてきました。しかし本調査からは、助成金に求められる役割が大きく変化しつつあることが浮き彫りになっています。調査によると「助成金はポジティブな変化を促す原動力であるべき」と考える主催者は62%にのぼり、開催地側でも91%が同様の認識を示しています。一方で、こうした考え方を評価基準や制度設計に実際に組み込

めている都市・ビューローは、わずか6%にとどまっているのが現状です。この理想と実装のギャップの背景には、予算制約(66%)に加え、社会インパクトの測定の難しさ、既存制度や政治的枠組みとの整合性といった運用上の課題が存在します。ただし同時に、開催地の40%が「今後24か月以内に、サステナビリティや社会インパクトの目標を助成制度に統合する意向がある」と回答しており、業界全体が転換期にあることも示されています。

#### 主催者

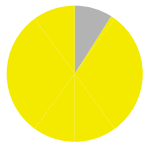
助成金は  
変化を促す原動力で  
あるべき



62%

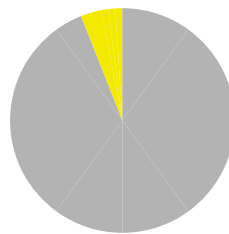
#### 都市&ビューロー

助成金は  
ポジティブな変化を促す  
と認識



91%

#### 社会インパクト等を 助成金制度に取り入れている都市



6%

#### 原因

##### 運用上の課題

予算制約、社会インパクト測定の難しさ、既存制度や政治的枠組みとの整合性など

### 求められる 「主催者とのコミュニケーションの再設計」

助成金制度への実装が進まない要因として、本調査で特に注目されたのが、開催地側から主催者へのガイダンス不足です。「助成金をサステナビリティ推進や長期的な社会インパクト創出のために、どのように活用できるのか」という視点が、制度として十分に言語化・共有されていないことが、実装の障壁となっていることが明らかになりました。実際に、「サステナビリティ推進や長期的な社会インパクト創出に向けた助成金の活用方法について、開催地は明確なガイダンスを提供しているか」という問いに対し、多くの回答者が十分ではないと感じていることが示されています。

### 開催地と主催者の協働を促す 「Play Book」の試み

こうした調査結果を踏まえ、札幌コンベンションビューローでは、主催者向けの「助成金活用Play Book」の構想を練っています。Play Bookでは、助成金の申請から交付までのプロセスや必要な手続きなどの整理に加え、助成金をサステナビリティ推進や社会インパクト創出に結びつけるための考え方や視点の共有を目指しています。大切なのは、助成金を単なる支援制度として捉えるのではなく、開催地と主催者が対話を重ねながら、ともに開催の価値を高めていくための一つの手がかりとして活用してもらうこと。札幌コンベンションビューローは、こうした試みを通じて、コンベンション開催の準備期間が、より意義あるプロセスとなるよう、主催者と伴走していきたいと考えています。





## パートナー連携

### MAXiMICEキックオフイベント

2025年12月11日、コンベンションビューロー主催「MAXiMICEキックオフイベント」を開催しました。ビジネスイベントにおける札幌の魅力を最大化することを目的として立ち上げた新しい試みです。当日は札幌圏のMICE施設・コンテンツ関係者など約40名が参加。北海道赤れんが未来機構支配人の荒木田康氏を迎えて札幌MICEの魅力と未来を語るトークセッションや、全国大会で優勝経験を持つ阿部翔平氏のカクテルパフォーマンスが披露され、参加者同士の交流も活発に行われました。今後も定期開催し、MICE開催地としての魅力を高めてまいります。



### 広域連携会議2025 @AOAO SAPPORO

札幌市では、小樽市、倶知安町、ニセコ町との間で「MICEにおける連携・協力に関する覚書」を締結しています。札幌コンベンションビューローも、札幌のMICE推進機関として本連携に参画しています。これまで、海外DMC等の視察受入れなど、各種連携事業を展開してきました。加盟都市のMICE担当者による情報交換を目的として、年に1回、持ち回りで「広域連携会議」を開催しています。

2025年は、都市型水族館AOAO SAPPOROにて会議を開催しました。ワーキングスペースを活用した会議の後には、「推しペンギン」をテーマとしたチームビルディングを実施するなど、水族館ならではのプログラムを企画しました。同施設は、ウェルカムカクテルや懇親会などの会場として利用可能であり、市内中心部に位置しながらも、水辺の生き物や水の演出に包まれた幻想的な空間が魅力を放つユニークベニューです。



### 大田観光公社との共同プロモーション

2025年11月、韓国・ソウルで開催された「Korea MICE Expo」に、10年ぶりに参加しました。2024年以降、韓国からの送客は好調で、大型の企業インセンティブツアーの実施に加え、韓国の学術団体によるコンベンションの札幌開催も複数決定しています。また、札幌の姉妹都市でもある韓国・大田の観光MICE振興を担う大田観光公社との連携も、この1年で大きく進展しました。「Korea MICE Expo」での共同ランチョンセミナーの実施や、研修プログラムの一環での職員派遣など、リージョナルパートナーシップは新たなフェーズを迎えています。



## コンテンツ開発

### 北海道生け花

日本の伝統文化「生け花」を通じて結束力を高める、いま注目のチームビルディング。北海道の素材を取り入れた花材や花器を使い、チームで心を一つに作品を創り上げます。また、和をテーマにしたパーティーでは、音楽に合わせてダイナミックに生け込みを行う「生け花ライブパフォーマンス」も実施可能。参加者に生け込み体験をもらい、会場全体で作品を完成させる演出型プログラムとしてもご利用いただけます。



対応人数  
200人

www.youtube.be/qW2IKBwPleU?si=H1ipNYdZJRAJJYk0

参考

www.aao-sapporo.blue/

参考

www.dio.kr/eng/index.do

詳細

www.conventionsapporo.jp/uv\_and\_tbr/jp/eam\_building/detail.asp?id=166

